

**令和5年度第4回
函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会**

日 時	令和6年2月13日（火） 18:30～19:50
場 所	函館市役所 8階 第2会議室
出 席 （委員）	佐竹委員（会長），田上委員（副会長），長瀬委員， 小澤委員，渡辺委員，塚田委員，菊池委員，五十嵐委員， 高橋委員，佐藤委員，駒野委員（11名）
（アドバイザー）	深見渡島教育局教育支援課長
（事務局）	藤井教育長，小笠原学校教育部長，金野教育政策推進室長 櫛田教育政策課長，鈴木主査，蝦名（5名）
傍聴者	1名

1 開会

（会長）

本日はご多用の中，お集まりいただきありがとうございます。令和5年度第4回函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を開会する。本協議会について，函館市情報公開条例の規定に基づき，原則，公開して行う。議事等について，非公開とする内容がないと考えるため，全ての会議が公開となるがよろしいか。

（「異議なし」の声）

なお，今後開催する会議の内容によって，公開することが適当でないと思われるときは，非公開とする場合もあることをお願いする。次に，会議録について，会議終了後に，発言要旨を取りまとめた会議録を作成，事前に，出席された委員の皆様を確認し，公表とする。公開の際には，発言者の氏名は伏せて公開する。各委員の皆様には，積極的に発言をいただくようお願いする。また，会議の公開と合わせ報道機関によるカメラおよび写真撮影を認めたいと考えている。本日は3名。よろしいか。

（「異議なし」の声）

本日の出欠の状況は，協議会委員13人中11人の委員の出席となっており，設置要綱第7条第3項の規定により，半数以上の方に出席いただき，会議が成立していることをお知らせする。まず初めに本日は藤井教育長が出席されているので，ご挨拶をいただきたい。

（「異議なし」の声）

（藤井教育長）

まずは，遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。第4回のこの協議会にあたり，一言ご挨拶をさせていただきたい。皆様には，日ごろから本市の教育行政の推進に関し，温かいご理解とご協力をいつもいただいていることに感謝申し

上げる。加えて、このような遅い時間に、これまで4回ご出席いただき、重ねてお礼申し上げたい。これまで、教育委員会でどのような活動をしてきたか振り返ると、道の部活動の移行の検討支援アドバイザーをお呼びし、皆さんで研修をした。その後、静岡県静岡市、掛川市、焼津市、沼津市、富士市5市に担当職員が直接出向き、先進市の状況を視察してきた。函館市の児童生徒、保護者、関係団体、教職員等に対し、大規模なアンケート調査を実施し、つい先日は小中学生の意見交流会を実施した。本日は、それらの結果を報告するとともに、いろいろなご意見をいただきたいと思っている。国は令和7年度までに、可能な限り土・日の部活動の地域移行を推進するとしており、本市としても可能な限り努力するが、令和7年度までに全ての競技種目について移行することは、函館市の規模だと簡単にはいかなないと改めて感じている。それらを含めながら、推進計画を策定していくこととなり、本市においては、多くの大都市にもあるように、可能な限りということ、令和8年度以降もそれらが続けていき、最終段階にもっていきたいと思っている。子どもたちのことを考えると、函館の子どもたちが、文化・スポーツに親しむ機会が失われることなく、環境を整えていくことが、極めて大事だと思っており、未来を育む子どもたちの文化・スポーツに親しむ機会の創出について考えていかなければならない。そのためには金銭面の問題もクリアしていかなければならない。学校の先生方のことを考えると働き方改革もあるので、一日も早くという気持ちはあるが、そのために、先生方も目指している子どもの幸せが変な形で歪められてしまうことは、学校も本意ではないことを伺っている。子どもたちの発達やニーズに合わせながら、できる限りのことを進めていきたいと思っている。委員の皆様それぞれのお立場やご経験からたくさんのアドバイスやご意見をいただき、本市の部活動の地域連携・地域移行に邁進していきたいと思っているので、ご協力をお願いする。

(佐竹会長)

教育長ありがとうございます。今、抱えている課題を端的にお話いただき、皆様納得されたと思う。なお、教育長はこの後所要のため退席する。ありがとうございます。

—藤井教育長退席—

(佐竹会長)

次第に従い協議会を進めるが、ここで議事に入る前に、お諮りしたい件がある。事務局から説明をお願いする。

(事務局)

説明の前に、本日の会議資料の確認をする。1枚目が次第、次に資料、函館市教育委員会傍聴人規則、次に参考資料、部活動の地域移行についてとなっている。資料および参考資料の不足などないか。

では、事務局から、傍聴の手続きに関してお諮りしたく、説明する。本協議会の傍聴の手続きに関し、函館市教育委員会傍聴人規則に準じ、会議の記録を目的として、

傍聴受付票に、氏名のみを1人1枚形式で記載いただいているが、今般、資料1のとおり、函館市教育委員会傍聴人規則の改正があり、教育委員会を傍聴する方は、傍聴章を着用することとし、受付簿への氏名等の記載は不要とする。事務局としては、本協議会においても、この取扱いに準じることとし、次回の協議会から傍聴希望者には、氏名等の記載を求めることなく、傍聴章を着用のうえ、傍聴して取扱いとしたいと考えている。ご検討のほど、よろしく願います。

(佐竹会長)

傍聴の手続きについて、事務局から案が示されたが、委員の皆様いかがか。

(「異議なし」の声)

異議なければ、次回の協議会から、傍聴の手続きを事務局案のとおり変更するので、よろしく願います。次第の2「議事」に入る。議事1「学校部活動の地域移行等に関するアンケート調査」の結果報告(速報)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

本日は、速報ということで、結果の大まかな内容についての報告とする。スライドをご覧ください。

この調査については、令和6年度で策定する、地域移行に関する推進計画において、学校部活動の地域移行等に向けた取組を検討する基礎資料とすることを目的とし、昨年12月に実施した。

調査の対象は、市立小学校の児童4・5・6年生、中学校の生徒1・2年生とそれらの保護者、教職員、部活動地域支援者、運動・スポーツおよび文化芸術関係団体とし、主としてグーグルフォームによるWebアンケートにより実施した。回答状況については、児童生徒が約8割、その保護者は3～4割、教職員からは約7割の回答率となっている。

最初は、中学校生徒の活動状況である。学校部活動を行っている63%、学校部活動以外の教室クラブ等で活動している10%、学校部活動と学校部活動以外の教室・クラブ等両方で行っている10%、何も行っていない17%となっている。

次に、休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、どんな活動をやってみたいか尋ねたところ、学校部活動と同じ競技・種目の活動37%、学校部活動にはない競技・種目の活動15%、複数の競技・種目を体験できる活動7%、現在行っている教室・クラブ等の活動を続ける14%、わからない27%となっている。

次に、その休日の地域クラブ活動をどんな活動にしたいかを複数回答可で尋ねたところ、専門的な技術指導が受けられる活動48%、大会やコンクールでよい成績が収められる活動43%、幅広い年代の人と一緒に出来る活動17%、初めてでも気軽に参加でき、楽しむことを目的としたレクリエーション活動43%、その他1%となっている。

休日の地域クラブ活動への移行について心配なことを複数回答可で尋ねたところ、学校の顧問の先生と教室・クラブの指導者との指導方法内容の違い34%、教室・クラ

ブの指導者や他校の生徒などとの人間関係 37%，会費などの負担 24%，活動場所までの移動手段 33%，その他 1%，特になし 39%となっている。

続いて、小学校の児童に中学生になったらやってみたい活動を尋ねたところ、学校の部活動 52%，学校以外の教室やクラブなどで行う活動 8%，学校の部活動と学校以外の教室やクラブなどで行う活動と両方 11%，活動したいと思わない 5%，まだわからない 24%となっている。また、同じく小学校の児童にやってみたい種目を 2 つまで選んでもらったところ、バスケットボール、バドミントン、サッカー、野球、美術、吹奏楽、陸上、ダンスが 10%以上の児童から希望がある。

次は保護者について。学校部活動の地域移行について知っているか尋ねたところ、小学校の保護者では、知っている 28%，なんとなく聞いたことはあるが、よく分からない 38%，知らなかった 34%となっており、中学校の保護者では、知っている 36%，なんとなく聞いたことはあるが、よく分からない 40%，知らなかった 24%となっている。

また、地域クラブ活動への参加に係る負担可能な金額として、月額で聞いたところ、小学校の保護者では、1,000 円 17%，3,000 円 49%，5,000 円 26%，7,000 円 4%，9,000 円 2%，10,000 円以上 2%となっている、中学校の保護者では、1,000 円 26%，3,000 円 45%，5,000 円 24%，7,000 円 2%，9,000 円 2%，10,000 円以上が 1%となっており、小・中いずれも 3,000 円が最も多い割合となっている。

次に小学生の保護者に、地域クラブの活動場所への移動について、保護者の送迎が可能か尋ねたところ、はい 35%，いいえ 16%，現段階ではわからない 49%となっている。

次に、地域移行に期待することを複数回答可で尋ねたところ、小学校の保護者では、専門知識や技術の向上 35%，設備の整った場所で練習できること 29%，子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動が選択できること 38%，他校の生徒等と交流できること 23%，その他 2%となっている。中学校の保護者では、専門知識や技術の向上 59%，設備の整った場所で練習できること 41%，子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動が選択できること 57%，他校の生徒等と交流できること 38%，その他 4%となっている。

地域移行への心配や負担に感じることを複数回答可で尋ねたところ、小学校の保護者では、受け皿となる団体や指導者の確保 30%，部活動顧問（教員）と指導者との指導の違い 23%，指導者の質や指導方法（行き過ぎた指導や勝利至上主義など） 23%，中学校 3 年間において継続した活動 13%，会費等の経済的負担 29%，学校以外の活動場所までの移動手段や送迎の負担 39%，事故やトラブルへの対応や補償 15%，他校の生徒との人間関係 14%，その他 1%，特になし 4%となっており、中学校の保護者では、受け皿となる団体や指導者の確保 42%，部活動顧問（教員）と指導者との指導の違い 37%，指導者の質や指導方法（行き過ぎた指導や勝利至上主義など） 34%，中学校 3 年間において継続した活動 15%，会費等の経済的負担 44%，学校以外の活

動場所までの移動手段や送迎の負担 65%，事故やトラブルへの対応や補償 26%，他校の生徒との人間関係が 28%，その他 1%，特になし 9%となっている。小・中の上位 3 項目については、順位の違いはあるが、同じ項目となっている。

次に教職員について。中学校の部活動で顧問や副顧問を担っている教員のうち、専門として指導できる 33%，専門ではないが過去に顧問として経験はある 30%，専門ではなく、過去に顧問として経験もない 37%となっている。また、教職員に部活動での指導について、どのように感じているか尋ねたところ、やりがいがある 15%，どちらかというやりがいがある 16%，負担を感じている 36%，どちらかという負担を感じている 20%，どちらともいえない 13%となっており、やりがいがあると、どちらかというやりがいがあるかを合わせた割合よりも、負担を感じている、どちらかという負担を感じている、を合わせた割合が上回っている。

次に、地域移行後の地域クラブ活動に兼職兼業の許可を得た上で、指導に従事したいか尋ねたところ、小学校では、従事したい 1%，勤務条件・報酬によって検討したい 10%，従事したくない 62%，現段階ではわからない 27%となっている。中学校では、従事したい 7%，勤務条件・報酬によって検討したい 29%，従事したくない 52%，現段階ではわからない 12%となっている。

次に、現在、中学校の部活動において、顧問の補助的な立場で専門的な技術指導を行っている部活動地域支援者に、教員に代わって顧問として指導・引率が可能となる部活動指導員となることを希望するか尋ねたところ、希望する 18%，希望しない 46%，勤務条件・報酬が分からないと判断できない 36%となっている。

最後に、市内の運動・スポーツ，文化芸術関係団体に、地域移行の実施主体となることについての考えを聞いたところ、前向きに検討したい 23%，条件によっては検討可能 40%，条件に関わらず実施は困難 37%となっている。以上である。

(佐竹会長)

事務局から、アンケート調査の結果報告（速報）について説明があった。委員の皆様から、ただいまの説明に対する質問、意見等があったら、発言をお願いします。

(A 委員)

このデータは最終的に、ホームページなどへアップするのか。ここで終わるのか。

(事務局)

最終的に、冊子の形で取りまとめたうえで、皆さんに配布するほか、ホームページでも公表することを考えている。

(佐竹会長)

他に何かあるか。

(B 委員)

私も公開してほしい意見の一人である。なぜかという、どれだけの市民がこの地域移行について知っているのか、知らないのか。アンケート調査をすることによって、保護者や部活指導をしている方の意識も高まるのではないか。私は文化の方だが、実

を言うと 33 加盟団体があるが地域移行とは何かという意識をもっている方も多い。

何らかの形で市の動き、地域移行に関する本市の考え方、学校の先生方の思いを知らせていくような取り組みをお願いしたいと思っている。素晴らしいまとめ方なので、このまま黙っておくのは勿体無いと思っている。取り組みを通じて、意識を高めていくのは大事なことだと思うので願います。

(佐竹会長)

事務局の方から、今の件についてないか。

(事務局)

特にない。

(佐竹会長)

他に意見はないか。

(C 委員)

大変貴重な調査結果を拝見した。スポーツ少年団本部として、毎年この時期、本部に登録している各競技の指導者とスポーツ少年団用語でいう母集団（支える母体となる集団）ということで、地域も含めて母集団と指導者を対象とした研修会が、今月開催される予定となっている。今回のテーマをこの「部活動地域移行・地域連携」についてというテーマで、今現在オープンになっているデータをもとに今回のデータを含め、周知という部分で広く進めたいと思っている。今回この調査結果、できれば研修会までにまとめていただきたい。大変なことだとは思いますが、おそらく 100 名程度が集まる研修会になる。その機会に情報を発信したいと思っているので、お願いとしてお聞きしたい。

(佐竹会長)

事務局どうか。

(事務局)

ありがとうございます。市民の方々への周知という部分は、地域移行を進めていくことにおいて大切なことだと、国のガイドラインを含め、私も含め大変感じているところだ。研修会で資料をとのことで、今話をいただいたところなので、このタイミングまでにどこまでのものをまとめられてという部分はあると思うが、相談いただきながら進めていければと思っている。

(佐竹会長)

大事な資料になるので、事務局としっかりと打ち合わせしたうえでお願いできればと思う。

(A 委員)

これから、地域移行を進めていくにあたって、お聞きしたいことがある。過去、道内外で小学生が放課後に学校で活動を行っていた。函館はどうなのか。今後、函館市の部活動が地域移行される時、安全面はもちろん、子どもたちを理解している先生方に関わってほしいと思っている。勤務時間のこともあって、制限されているのだら

うか。

(佐竹会長)

少年団という形で、一時期には学校の先生が主体となり、放課後活動をしていたことはあったが、補償問題などもあるので、結局、別な団体を作って活動することとなった。

(A委員)

今まで、学校の先生が、時間外の中で関わってきことは、たくさんあると思う。そのような現状があり、保護者が先生に依存している部分があると思う。学校の先生がやっているから、安心してやらせていることは結構あると思う。

地域移行について保護者の皆さんがその続きとってしまうと、目指しているものと違うこととなる。ここの違いをきちんと保護者に伝えないと、地域移行になっても先生がやってくれるという発想が先にきてしまう。

(事務局)

学校が主体となってやる活動と、社会教育としての活動と、これから並存しながら移行していく。地域の皆様に理解いただきながら進めていくというのが大事な視点だと思っている。

(佐竹会長)

小学校の放課後の活動が話題になっているが、ここで話し合っているのは、中学校の部活動である。アンケートの内容の部活動も中学校のことでよいか。

(事務局)

そのとおりである。説明が不十分だった。小学校4・5・6年生に聞いたのは、今後、地域移行を進めたとき、小学生が直接の対象となるだろうということで、小学校の児童も含めてアンケートをとっている。小学生の教職員に兼職兼業について聞いたのは、地域移行した場合、地域クラブとして従事することを想定したものである。

(A委員)

なんとかクラブとか学校の中でも何かあったように思うが。

(佐竹会長)

それは、小学校学習指導要領に示されており、時間割の中に組み込まれている。小学校の保護者は、クラブ活動と部活動は違う認識でいると思う。教育課程に含まれているかいないかである。

(A委員)

わかった。

(C委員)

今、A委員から少年団に関係する話があったので、私はスポーツ少年団を束ねている立場から話をしたい。各スポーツ競技団体で、スポーツ少年団に登録しているチームやスポーツ少年団に登録していないで活動しているチームも様々ある。スポーツ少年団では、皆さんご存じの通り地域活動ということで指導者の中に教員の方がいるケ

ースもあるが全て個人の立場で参加している。競技の中には学校施設を借りなければならぬ競技もあり、学校関係者の皆様の好意で場所を借りている。その中で、たまたま借りている学校の教員の方で経験者の方がいて、自分の時間で、休みの日などにお手伝いいただいているケースがある。あくまでも地域の活動として行っている認識でいる。教員の方が主体としてやっている団体があるとすれば、私は把握していない。地域移行を進めていく中で、どの世代が参加するスポーツ活動になるのかなど明らかにしていく必要があると思う。

(佐竹会長)

ありがとうございます。その他あるか。たくさんの貴重な意見をいただいた。次に、議事2「学校部活動の地域連携・地域移行等に関する。小・中学生意見交流会」の開催報告について。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

函館市の学校部活動の地域連携・地域移行の検討・協議を進めるうえで、先程、説明したアンケート調査に加え、児童生徒の意見を直接聴くために意見交流会を実施した。小学生の部は、あさひ小学校、大森浜小学校、駒場小学校、高丘小学校、亀田小学校の5校の参加により先月1月29日に、中学生の部は、深堀中学校、湯川中学校、戸倉中学校、桔梗中学校、南茅部中学校の5校の参加により翌30日に開催した。

開催にあたってはWeb会議システムを活用し、参加各校と南北海道教育センターを結び、参加各校からは、児童生徒がそれぞれ2～4名と教職員、センターには本協議会の佐竹会長ほか委員の皆様、また、アドバイザーの渡島教育局からも参加をいただいた。

交流会は、代表の児童生徒が司会を務め、最初に教育委員会から部活動の地域移行について説明した。参加児童生徒の自己紹介の後、あらかじめ準備した質問への回答、教育委員会からの追加の質問への回答と進み、最後は佐竹会長からご挨拶をいただいた。本日は、いくつか特徴的な質問への回答をご紹介させていただく。まず、小学生の部において、「学校の部活動が地域で行う活動になったとき、どんな活動だと楽しそうだと思うか、心配なことはどんなことか」という質問に対し、「仲間を増やし、協力して交流などを深め、いろいろなことにチャレンジできること」「専門的な知識や技術を持っている指導者が来てくれる」「指導者と一緒に練習メニューを考えてみたい」といった意見がある一方で、「喧嘩や悪口を言われぬか」「指導者がどんな知識や経験があつて、どのような指導をしてくれるのか」「活動時間をしっかりとれるか心配」といった意見があつた。「同じ競技や種目の活動をして勝たいたいと思う人と楽しみたいと思う人がいると思うが、どうしたらよいと思うか」という質問に対しては、「楽しみたい人は楽しみ、勝たいたい人と分けた方がよい」「勝ち負けではなく、交流をしてみんなで楽しむ方がよい」「楽しみたい人、真剣にやりたい人、どちらもよいが、話し合うことが大切だと思う」と様々な意見があつた。「来年から、中学校での部活動ではなく地域のクラブ活動になるよと言われたら、どんな気持ちにな

と思うか」という質問に対しては、「やると決めたのは自分なのでちゃんとやりたい」「たくさんの人と交流するのが好きなので楽しみ」「今やっている陸上は学校にないので、違うところに行くことになっても陸上をするのは楽しみ」「いろいろな人と関わられるのでいい」といった前向きな意見が多くあった。

中学生の部においては、「学校の部活動が休日だけ他の学校へ行って合同で練習したり、自分の学校にない部活動でも、他の学校へ行って参加できたりする方法があったらどうか」という質問に対しては、「他校の人との交流が出来て、部活動の雰囲気や学べる」「自分の学校にはない、興味を持っていた部活動にも気軽に参加できる」「人数が増えることで、試合形式する機会が多くなって経験値が上がる」「いろいろな人のプレーを見ることができ、参考にできると思う」といったことを期待する意見と、「人間関係や送迎、怪我等をしたときの対応や責任がどうなるのか」「他校の戦術やプレーを見に来るために参加する人がいるかもしれない」といった心配な点への意見があった。また、「もし、今やっている競技などが自分の学校になかったら、隣の学校や別の学校に行ってもやってみたいと思うか」という質問に対しては、14名中6名手が挙げた。「いつも接している自分の学校の先生ではない別の学校の先生や学校の先生ではないけれど専門に教えてくれる人が指導してくれる場合、どんな期待や不安があるか」という質問に対しては、「それぞれ違う指導方法に期待したい」「新しいことが学べる期待があって、楽しくなるような気がする」といった意見がある一方で、「教えてくれる先生が資格をもっているかどうか、全くわからない先生が教えるのは不安」といった意見もあった。「他校の生徒とともに活動をする際に、勝ちたい気持ちが強い人と楽しみたい人が同じチームになった場合はどうか、チームを分けたりしない方がよいか」という質問に対しては、「現状でも勝ち負けにこだわりたい人と楽しみたい人は分かれており、方向性をみんなで話し合っただけでまとまりができるようにしているので、他の学校とやるときも、話し合いをしていけば、トラブルなどは少なくなると思う」という前向きな意見がある一方で「クラブチームに入っているが、意見の違う人がいると練習に集中できなくなる」「勝ち負けにこだわらず、楽しみたい人が多い中に、一人だけ勝ちたいという気持ちが強い熱い人がいると、少し浮いてしまうかもしれない」といった率直な意見も聞かれた。

(佐竹会長)

事務局から、小・中学生意見交流会の開催について説明があった。私の感想だが、非常に小学生も中学生も前向き捉えている。そういう子だから交流会に出てきたのかもしれないが、大人が危惧している以上に、子どもたちは前向きに捉えていると感じた。これが全ての意見というわけではないが、やって良かったと感じた。

それでは、議事1から2を通して、アドバイザーである渡島教育局教育支援課の深見課長からお話をいただきたい。

(深見課長)

アンケート結果や意見交流会の内容を聞いて、子どもたちの生の声、保護者の方の

リアルな声は非常に参考になり、もう少しゆっくり見たいと思った。児童・生徒・保護者を交えたニーズの把握は、管内でも函館市が一番進んでいる。実態把握をしないと、どんな形を作っていくかということも難しく、そこをないがしろにして、ただ政策ということで進めてしまうと、あとで破綻してしまう恐れもある。非常に素晴らしいと思った。本格的な分析はこれからと思うが、今伺ったことでも、今後につながる内容が多かったと思っている。

まず、アンケートについては、専門性や成果を求める一方で、楽しむことをあげている中学生が多いことが印象的で、これは生涯学習の観点から言っても非常に大事なことだと思う。50歳になっても、運動する習慣を子どものときからつけていく意味でも、楽しむという要素は大事であり、目指す地域活動像に近いと思った。既存の種目で楽しめるものがあるというのは、クロス集計等をしてみないとわからないが、小学生のお子さんに多いと感じたところだ。皆さんから意見が出ていたが、学校部活動の地域移行について保護者の認知度が20%後半から30%台であったことから、推進計画策定にあたってパブリックコメントを募集されると思うが、このとき十分な周知が必要だと感じた。例えばアンケート結果から活動費を設定していく目安も、数字というのは非常に参考になると思う。制度周知や制度設計において、保護者や地域の方に十分に周知しながらその必要性を考えていく。ただ、活動費については、交通費やバス代、施設の入場料など全部含んだ金額なのか、所属のクラブだけに払うお金というイメージでいるのかということも3,000円という数字を見て感じた。

意見交流会については、私も小学生の部を視聴した。なかなか質問が難しいものもあったが、子どもたちも悩みながら一生懸命に考えて率直に答えていた。前向きに新しい形で、「いろいろな人と交流したい」「新しい活動をしたい」というイメージをいっぱいもっていたので、そこは素敵だと思って聞いていた。既存部活動のイメージがない子どもの方が、新しい地域クラブ活動のイメージを持ちやすい。昔の部活動しか知らない人だと、「他校の人が入ってくるのが嫌だ」「どこの先生かわからない人がくるのが怖い」などがあるが、これからは多様な人と協力していろいろなものをつくっていくのも、学習指導の方向性から考えても、子どもたちは理解してくれていると感じた。

今後の取り組みだが、新しい地域クラブ活動のイメージをどう伝えていくかが大事で、難しいところだと感じた。これを明確に打ち出していくことで、市民の皆さんや子どもに理解いただき、それがどんどん浸透して、だんだん「当たり前」になる。今の部活動は50～60年ずっとこの仕組みでやってきた。それが皆さんの「当たり前」になっているが、新しいイメージは、その50～60年分を変えるくらい強く打ち出していけないと、ずっとそれで育ってきた私たちなので、イメージを変えていくことは難しいがそこが大事なことだと思う。また、会の名称も考えた方がいい。学校部活動とついていると、先生と学校の仕事というイメージを一般の方は持ててしまいやすいと思う。道教委で行っている会議も地域クラブ部活動推進協議会って名前になってい

た。新しいスポーツ・文化芸術の形を作っていくことが目標だが、資源、お金、教育長も話されていたとおりに限りがあるので、来年から、再来年からいきなり全部100%切り替えますというのは、難しいことと思うが、子どもたちの利益になるようにじっくり進めていく。クラブ活動をやってもいいという先生方の数も限られているとアンケート結果にも出ていた。作った分のクラブ活動の母体全部に先生方や地域の指導者を全部つけられるかということは急いで決められることではないので、じっくり検討されるのがいいのかと思う。

今回皆さんに配付している参考資料について説明する。中身は、以前熊耳先生が来られたときの資料と前半はほぼ同様である。首長部局である市長、町長間との連携も必要であると道教委も考え、1月～5月にかけて道教委本庁幹部職員が全管内を回り、町村会で地域移行の取り組みなどの説明を行っているところだ。渡島管内においては2月1日に町村会で説明が行われたが、函館市は入っていないので、こちらの資料は参考までに送付した。何をお願いしたのか最終頁をご覧ください。いろいろな面で教育委員会だけではなく、首長部局と連携していくようお願いをしたところであり、文化・芸術・スポーツといった担当部署、渡島管内はスポーツ振興会関連が教育委員会にあると思うが、保健福祉では、体づくり、健康づくりなどの事業を行っており、そういうところとの連携やお金がかかるとなれば経済振興担当との連携も考えられる。最後に、アンケートにも出ていた一番心配される場所である移動手段の確保については、まちづくり担当部局や交通網などの担当部局と連携するべきで、教育委員会がやろうとしていることの後押しを首長にもお願いすることを先日行ったところである。本庁の方でも地域クラブ活動推進協議会研修会を開催したが、先日印象に残ったのは中札内村の発表である。人材が限られている村であり、音楽や美術の指導をどうするかで、昭和音楽大学や武蔵野美術大学と連携を図り、なんとか指導していけないかと積極的に外部と繋がろうとしていることが印象的だ。渡島教育局では、2月19日に管内の市町村担当者に参加いただき、情報交流を行う予定である。函館市には先に進んでいるということで情報提供をお願いしている。今後とも管内を牽引する立場で、取り組みを進めていただきたいと思いますと考えている。

(佐竹会長)

ありがとうございました。次に次第の3「その他」今後のスケジュールについて、事務局から説明する。

(事務局)

令和6年度については、教育委員会として、地域移行に関する推進計画の策定に取り組むことから、本協議会については、来年度前半は頻回に開催を予定している。なお、推進計画については、教育委員会としての案を決定した後、その趣旨や内容等を広く公表し、市民の皆様からのご意見をいただくパブリックコメントの手続きを経て、令和6年度末までに成案化する予定である。このほか、学校部活動の地域連携については、教員に代わって顧問として指導ができる部活動指導員の配置検

討や拠点校方式による合同部活動など、できるところから順に取り組む方向で考えており、来年度後半の協議会では皆様にもご報告させていただき、意見を頂戴したいと考えている。会議の開催にあたり、今年度と同様あらかじめ日程調整をしたうえで、事務局から案内させていただく。委員の皆様には、次年度においても引き続き、ご協力の程よろしく願います。

(佐竹会長)

ありがとうございます。令和6年度が推進計画の策定となり、具体的に動いていくことになる。ただ今の事務局からの説明を含め、その他として委員の皆様から何か意見はあるか。事務局からも何かあるか。

(事務局)

本日はお忙しいところ、ご出席賜りまして誠にありがとうございました。アンケート調査については、速報ということでご報告をさせていただいたが、詳しい集計結果については、後日皆様に送付後、函館市HPに掲載、公表する。

(佐竹会長)

本日の第4回の会議については、ご出席の委員の皆様のご協力により、滞りなく終了することができた。感謝する。

最後に、第1回の協議会で事務局から説明があったが、本市の部活動の地域移行に向けては、様々な課題があることから、教育委員会としては地域や学校の実情等に応じ、段階的に地域移行の実現を目指していく考えとのこと、当面は学校が主体となり、学校教育の一環としての学校部活動における地域連携の取り組みと地域が主体となり、社会教育の一環としての地域クラブ活動への地域移行が並存する形になるものと考えられる。

また、検討事項も多岐にわたるため、国が位置づけた令和5年度から令和7年度までの、改革推進期間内にすべての競技や種目において、休日の地域連携や地域移行を完了することは極めて難しく、令和8年度以降も引き続き取り組んでいくことになる。本協議会においては、来年度前半は推進計画の検討のため、皆様のご協力をいただき、しっかりとその役割を果たしたいと考えている。

以上をもって、令和5年度第4回函館市学校部活動の地域連携地域移行等に関する協議会を終了する。本日はありがとうございました。